

50. 肺炎治療を契機に発見された小型細気管支肺胞上皮肺癌の1例

筑波大学附属病院呼吸器外科

小貝琢哉, 伊藤博道, 酒井光昭
筑波大学臨床医学系外科 石川成美

山本達生, 鬼塚正孝, 榎原 謙
同 基礎医学系病理

森下由紀雄, 飯島達生, 野口雅之
筑波大学大学院医学研究科 南 優子

喫煙歴のある56歳女性。平成14年12月、肺炎で近医入院。胸部CT上、両側陰影を確認。今年9月のCT上、右肺S²に葉間に接するスリガラス影が残存。器質化肺炎と細気管支肺胞上皮癌(BAC)の鑑別のため手術方針とし、迅速病理診で肺腺癌を確認。右肺上葉切除術(ND2a)施行。永久標本上、直径13mmのBAC(野口Type A)と周囲の複数のAAHを確認。肺炎を契機に発見され、BACと複数のAAHを伴った1例を経験した。